

獅子丸一平 第三部 (1956)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

時間 77分

初公開日 1956/02/11

【解説】

川口松太郎の同名小説を「子供の眼」の松山善三が脚色し「雄呂血の秘宝」の萩原遼が監督した。帝の落とし子として生まれた青年の、剣と恋に生きる波瀾万丈の人生を描く。わずか一年の間に全五作が作られたシリーズの第三作。

上皇の命を受けて襲ってきた所司代の阿部播磨を、一平は返り討ちにして傷を負わせた。一平は伯父の天満屋徳右衛門のもとに身を潜めるが、天満屋は阿部播磨とその息子の由景によって焼かれてしまう。母の茂は雪城を出て京都へ向かう途中で一平と再会するが、一平は母と同行せず船に乗り、海の王女と呼ばれる不知火姫に会った。彼女の住む島の間人間になった一平だったが、播磨の手勢に襲われ、島の住民に迷惑がかかることを恐れ九州に戻ることに。しかしそこで阿部由景の一行二十四人と果たし合いをした結果、一平は失明してしまうのだった。

【クレジット】

監督 萩原遼

企画 マキノ光雄

田口直也

小川三喜雄

原作 川口松太郎

脚本 松山善三

撮影 吉田貞次

美術 川島泰三

音楽 小杉太一郎

出演 中村錦之助

高千穂ひづる

千原しのぶ

喜多川千鶴

進藤英太郎